

# 北陸石仏の会々報

第 28 号  
平成16年4月20日発行

編集発行 (年会費 三〇〇〇円)  
北陸石仏の会(日本石仏協会北陸支部)  
代表 北村市朗  
〒939-1315 富山県砺波市太田一七七〇 尾田武雄方  
電話 〇七六三一三二二一 二七七二  
振替 〇〇七四〇一三二二 一九七四  
E-mail: odatakeo@P1.ist.ne.jp

## 第28回例会

### 白山水系に育まれる信仰の根源

相古 誠 一

霊峰白山水系の北端は金沢市の金石港(旧宮腰港)にあり、地域一帯は奈良、平安時代の海路、水路活用による勃海国との交流など古くから北陸の交通要所の主軸下にあった。

国府や寺社荘園など領地争奪戦も水系に絡み激しく、中央からの統括派遣人ら一族の信仰布教もあわせてめざましく、室町時代の白山宮との小競り合いなども含め、今は海に侵食された普光寺三千坊の修業跡など禅宗檀家の継続も今だに各集落や家庭に引き継がれ、その歴史は現存する貴重な観音や地藏尊の姿にその背景をこの一帯に知る事が出来る。

第二十八回の定例研修会の参加は二十二会員、この金沢港南の「二塚観音の里」を訪ね、古代の平地古墳が二基(琵琶

菖、おまる塚)を有する神野町など六集落の路傍に祀られる三十三観音(越前石)、地域に多く見られる禅宗寺のゆかりある観音、地藏尊など拝観し、歴史的背景も含めここを護る人達とも親しく接する事が出来た。

路傍三十三観音は昭和三年に檀家有志の手で松島町に第一番如意輪観世音と西国三十三力寺めぐりの標柱、南塚近くの「曹洞宗、祥瑞寺、願かけ地藏」現、南寺哲明庵尼「読経礼拝」の前道路に建立されたが、道路や宅地など近代開発などで余儀なく移動、檀家希望宅の庭先へと移転し「観音講」も継続されていたが昨今は途絶えがち、一部の決壊観音もあり「祖霊供養と感謝の歴史意義」が一带から忘れ去られる心配はある。

しかし、御恩感謝を受け継ぐ家庭では小観音堂を建て、毎日夜を取り替え、供物を捧げるなど一家の幸せと地域の繁栄を祈願し、衆生救済を教え続ける貴重な「信仰遺産への心根」が一部に脈々と伝えられている事も感じられ、嬉しく会員らの胸を打った。

また、禅宗寺の斎場跡とされる「北塚観音堂」篠田隆雄氏管理」には、「彩色小観音石像三十三変化像」「七閻魔、

地獄曼陀羅石像」が祀られ、禅宗の死後世界の八地獄教訓が保存されている事は、石川県内でも個人所有では随一の貴重な信仰文化遺産と会員から絶賛されて永久保存を希望、守る篠田さんも「近辺火災の延焼を免れるなど不思議なご利益に感謝しています」との話も聞かれた。

さらに豊穂町の「天台宗、観音寺」上田孝順庵尼」には、金沢市の広見の寺の大地蔵（一石七〇匁、越前石）が「豊穂に行きたい」と庵主の夢枕に立ち、切望から「願かけ地藏」とし譲り受けられ、現在もご利益が多い事は近隣にその名を馳せている。

隣町の犀川下流の専光寺町の「専光寺観音堂」は町の檀家全体で管理、同町の西川家祖先ゆかりの竜源寺十九世象山良威和尚が明治に三河の國大塚から海路で宮腰港、犀川を船で運んだ「願かけ地藏座像」高さ一石」など遠来からの地藏尊、「釈迦槃下像」「彩色変化観音像」など大切に守られている。

安原砂丘に近い下安原の「曹洞宗」東光院」円通黙童庵尼」は、祖尼円通尼が現地で「准胝観音座像」高さ五〇匁」を鍬の先に発見、子授観音として崇められ「円通庵」を開基、金沢大乘寺二世塔頭より「弘法大師作十一面千手観音立像と座像の二体」木造」高さ二〇匁」特別拝観」を譲り受け「東光院」を拝命、町には「子安神社」もあり、加賀歴代藩主夫人の安産祈願が一带で行なわれて来た。

いずれの寺院にも路傍三十三観音が祀られ禅宗寺として関連するなど、一带が平地古墳を基軸とした信仰の大きな絆の輪にあった事を証明、近年では地域で古墳を護る風潮もあり整備され、特に「おまる塚」北笹塚町」は加賀國の

貞女「道今古」にまつわる悲話を有し、塚にある伏見稻荷より後に勧請された稲束と鎌を持つ「稻荷神像」は貴重な石像形態であり、隣接する「宇佐神社」も丘陵形態で石龕、安産石などを祀る古墳跡としても伝えられるなど神仏混淆の歴史継承が強い。

午後からは松任市へ移動、江戸時代の俳人「千代尼塚と庵」を聖興寺」中町」に訪ね、塚墓の越前石の形態など江戸時代風潮を確認、さらに明治の仏教哲学者の暁鳥敏（真宗大谷派、明達寺」北安田町）の鐘樓や六角堂を訪ねてその遺徳を偲んだ。

また、同北安田町の「日蓮宗、行善寺」雄谷助成住職」の釈迦生母「摩耶夫人像」木造高さ一石五〇匁、彩色」腹内釈迦内蔵」を、住職が私と中学時代に同級生で懇意にしていた事から無理に特別拝顔、明治の金沢の文豪、泉鏡花が母を偲び感涙し小説思想に現われるなどその姿は母性愛に溢れ、近隣の信仰も厚く関係文学者らの訪れも多い。

雄谷住職は「江戸時代に金沢に運ばれる途中に妙林の地で動かなくなりここに安坐、神でも仏でもない母子尊像で仏師が胎内像を拡大したもの、冠や服装、玉眼をはめ込んだ王妃が「無憂樹」アソカ」を手折りし右脇から誕生する釈迦の姿が描写されたもの」と、授り子、安産祈願に大きなエネルギーを与えてくれる事を説話した。

不思議に感じた底のない杓の奉納を訪ねると「生活環境による授子敬遠や悲しい子流し遊女の物語など、吾が子への惜別の母の心、希望に満ち溢れた人生への子らへの祈りが右顔、左顔の表情が見る人の心で異なる」と、参拝する祈願者の心の持ち用で偉大な母の心とも通い合わせている

悟りの姿の境地を見る時「拝顔して戴いた喜びに私も侵れるのです」と信仰者としての意義も説諭された。

さらに白山信仰のシンボル、手取川扇状地開拓の証しと信仰の絆をなす「白山狛犬」を上二口町の「笠野神社境内、観音堂」に訪ね、高さ一丈七〇センチの聖観音像、越前石を護る白山狛犬、高さ一六センチ、幅五センチの手取石を特別拝観、平安時代に一帯を開拓した豪族の小林佐十郎が勧請した「笠野の宮」を江戸時代に現在地に移転、宮丸村の「持宝院別当」が護る神仏混淆の勧行も明治の神仏分離で別祀されたが、町内近隣の崇敬は厚く歴史的にも貴重な価値を有している。

今回の研修は欲張り過ぎてあちらこちら目まぐるしく移動して申し訳御座いませんでしたが、穀倉加賀平野に恩恵を与え続ける白山霊峰の清水が「水を制する者は地を制する」と伝承される如く、平地開拓と信仰開拓と大きな関わりがある事は否めない事実を特に知って戴きたくご案内を申し上げた訳です。

幸いにも九十才の高齢にもかかわらず参加して戴いた金沢市の毛利直技会員さんが「坂道が無くて良かった、石川の地元にもこんなに偉大な信仰の歴史があった事に感激したよ」と、喜んで下さった事がお世話させて戴いた私の心をホットにして嬉しくなりました。

古来、祖霊達が私達に教えてくれている「この世に生を受けた人としての喜怒哀楽の中にも、感謝の性根を子々孫々に伝える事が私達の使命と神仏が授けて下さる深いご縁のおかげ」と、拝顔させて戴ける仏像や石像から学びとれば幸いな人生道と信ずる日々が深まって行きます。

北陸石仏の会第28回例会出席者

- |    |    |    |    |    |    |       |
|----|----|----|----|----|----|-------|
| 柳沢 | 栄司 | 南  | 金三 | 山田 | 玉枝 | 前田起さ子 |
| 岩城 | 義弘 | 斎藤 | 譲一 | 早川 | 明子 | 加藤 永子 |
| 尾田 | 武雄 | 北村 | 市朗 | 小竹 | 一夫 | 千秋 謙治 |
| 滝本 | 晴士 | 平野 | 重二 | 相古 | 誠一 | 坂本 幸作 |
| 毛利 | 直江 | 山森 | 伸正 | 林  | 絹子 | 19名   |



## 第29回例会

## 能登半島・石動山の石仏たち報告

平成15年11月9日やや肌寒く、小さい雨の降る日であったが多くの参加者があった。石川県鹿島町「国指定史跡石動山」は富山県と石川県の県境にあつて、昔から「いしゆるぎ山」として知られ修験道による山岳信仰の霊山として



崇められた山である。地元の観光ボランティアの面々に的確な案内をいただき有意義であった。また三井紀生さんや滝本靖士さんらの、墓地での墓石や中世石造物の説明には多くの知見を得ました。バスの中では尾田武雄の石動山についてのレクチャーもあった。

## 北陸石仏の会第29回例会出席者

柳沢 栄司	斎藤 善夫	山田 玉枝	三井 紀生
前田 英雄	村上 光子	北村 市朗	滝本 靖士
深山 説代	尾田 武雄	山崎 敏子	柳 音松
平井 一雄	上田 信子	中川 達	平野 重二
尾西 悦子	辻 文次郎	竹守 澄江	西村多恵子
竹守 要蔵	相古 誠一	西田 栄一	日南田秀昇
早川 明子	坂本 光作	晒谷 和子	

27名

## 野にある仏たち展

## ―日本と福野の石仏たち―

平成15年7月24日から8月5日

福野町の町角ギャラリー1号館と6号館で北陸石仏の会主催の写真展があつた。参加者は柳沢栄司(富山市)、平井一雄(大沢野町)、尾田武雄(砺波市)、深山説代(富山市)・故藤村善雄(金沢市)それに水本一太郎(庄川町)の石仏の展示があつた。「祈りの風景」として深山さんの詩と写真が添えられた。

《石仏紹介》15

【頭上に文字を刻む観音】

柳 沢 栄 司

新潟県糸魚川市の宝伝寺に、道路に面して三十三観音石仏がある。その中の二体だけに頭上に観音名を刻んである。馬と正。馬は馬頭、正は聖観音であろう。以前からお世話になってる能生町柱道の利根川晃義氏に、糸魚川の石仏に詳しい方をお尋ねし、二人を紹介された。宝伝寺に近い松野功氏（前糸魚川市社会教育課長）に教示をお願いした。宝伝寺の三十三観音は、天津神社の境内にあった高峰山教王院神宮寺のもので、明治の廃仏棄釈の折に宝伝寺に移されたものであるとのこと。馬頭は五番の台座に乗っているが、西国（二十九番松尾寺）、新西国、その他の観音霊場六十一霊場中に五番馬頭は無い。台座は別石なので移転の際に入れ替わったものであろう。



北陸石仏の会 第30回例会案内

◎月 日 平成16年6月6日(日)

◎時 間 集合 砺波駅 午前7時30分

富山駅 午前8時30分

◎参加費 五千元

◎申し込み 次の事項を記入の上はがきで

住所・氏名・電話番号・集合場所

◎申し込み先 〒九三九一―一三一五

砺波市太田一七〇 尾田武雄方

北陸石仏の会事務局

TEL 〇七六三―三二―二七七二

◎切 平成16年5月30日

見 学 予 定

平井一雄案内

「神通川上流高原川流域(越中東街道)の石仏」

ひだ市神岡町

\*土(ど)地区 旭観音堂境内

所要時間 30分ほど

双体道祖神、大日如来、青面金剛、役の行者文字碑など

\*東漆山(ひがしうるしやま)地区 ずいたん地藏堂境内

所要時間 30分ほど

双体道祖神、大日如来、青面金剛

\*朝浦・八幡地区(立ち達磨周辺)

所要時間 1時間30分ほど

双体道祖神、青面金剛、西国三十三観音、虚空蔵菩薩  
弁財天など  
\*時間が余れば 殿 神岡城「従高山八里」石標ほか

## おしらせ

・北陸石仏の会長北村市朗氏が武生市大宝寺の「水吹地蔵」の錫杖を寄進されました。  
・延命地蔵の錫杖が、かの戦争中に供出されたままの状態が多く見受けられます。高岡の老子製作所で作成されています。

## 錫杖、約60年ぶり復活

### 武生・大宝寺の水吹地蔵



右手の錫杖が復活した水吹地蔵 武生市本町で

武生市本町の大宝寺(吉田孝導住職)の境内にある「水吹地蔵」の右手の錫杖が約60年ぶりに復活した。吉田住職(77)の記憶では以前の錫杖は戦時中に金属の原料とするため、供出したと

いう。武生市若竹町の北陸石仏協会長の北村市朗さん(79)が費用を負担し、約

り鐘製作で知られる富山県高岡市の老子製作所に発注していた。長さ90cmの黄銅製で上部に6本の金色の輪がついている。水吹き地蔵は笏台石製とみられ、瑞永5(1852)年の府中の大火で大宝寺の伽藍の大半が焼けたにもかかわらず、地蔵が残ったことから命名されたという。

・一昨年亡くなられた元北陸石仏の会副会長北野正明氏の石仏関係書籍を当会にご遺族から寄贈していただきました。厚くお礼を申し上げます。

## ご案内

・富山県高岡市戸出町の「戸出を知る会」(会長大井留夫さん)が『戸出を語る石佛石碑』を出版  
・富山県福光町のあけぼの会が『福光町の石碑』を出版  
・平井一雄氏が大沢野町の石仏調査の悉皆調査を始めた  
・尾田武雄が『大山の歴史と民俗―有峰特集』6・7号で「法蔵菩薩石仏の研究」「有峰の狛犬についての一考察」を発表

・インターネット市民塾で講座「富山の石仏」を5月より開講します。インターネット市民塾からアクセスできます。  
・事務局にメールを送ることができます。odatakeo@P1.ist.ne.jp  
・『いたち川の記憶』(島原義三郎・中川 達編)

桂書房 3月25日発行 二五二〇円 三三七ページ  
(内容骨子)

「富山市の文化はいたち川から」という考えの小生(中川)、しかしこの川についての文献が少ないのに驚き、古老を中心にした聞き抄きに精を出し、その上に歴史・文献を加味してまとめたのがこの本である。

(注) 著者割引がありますので、ご希望の方で直接お渡しの出来る方はお電話下さい。

(〇七六一四二五―八一七二 中川 達)

平成16年度会費を同封の郵便振替用紙にて送金下さいますようお願いいたします。